

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報(U)

昭60-161925

⑫ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和60年(1985)10月28日

A 45 D 40/20
B 43 K 24/066671-3B
6951-2C

審査請求 有 (全1頁)

⑭ 考案の名称 化粧用容器

⑮ 実 願 昭59-48494

⑯ 出 願 昭59(1984)4月4日

⑰ 考 案 者 大 庭 淳 東京都新宿区下落合1丁目3番22号 鈴野化成株式会社内
 ⑱ 考 案 者 吉 野 俊 隆 東京都新宿区下落合1丁目3番22号 鈴野化成株式会社内
 ⑲ 出 願 人 鈴野化成株式会社 東京都新宿区下落合1丁目3番22号
 ⑳ 出 願 人 株式会社鈴野エンタープライズ 東京都渋谷区神宮前2丁目35番9号
 ㉑ 代 理 人 弁理士 吉 村 悟

⑳ 実用新案登録請求の範囲

先端に作業素子30を出し入れする為の開口部14を有するノズル筒体12及び該ノズル筒体12の後端に回動自在に装着された雌振子付き筒体22からなる筐体10と、先端に作業素子30が固定されると共に後端基部34に上記雌振子付き筒体22の雌振子部24と係合する突起36が付設され、上記作業素子30と共に上記筐体10内に受容される支持体32と、からなり、上記ノズル筒体12と雌振子付き筒体22との相対的な回動により上記作業素子30を上記支持体32を介して上記開口部14に対して出し入れするようにした化粧用容器において、

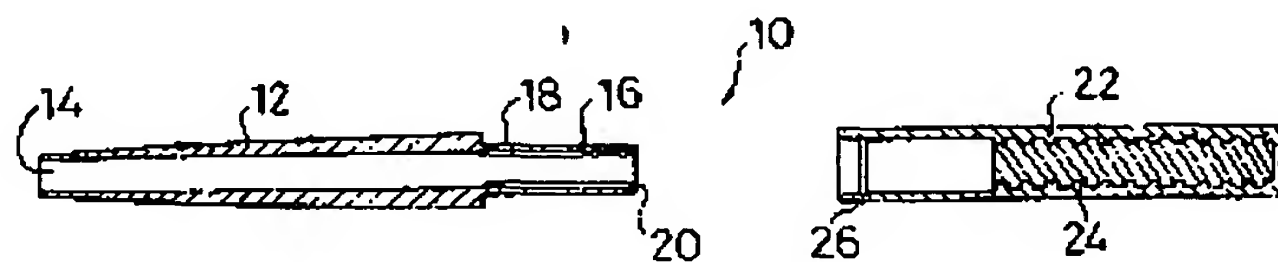
上記支持体32の基部34に軸方向に沿ってスリット38を穿設し、該基部34を可撓二肢構造としたことを特徴とする化粧用容器。

図面の簡単な説明

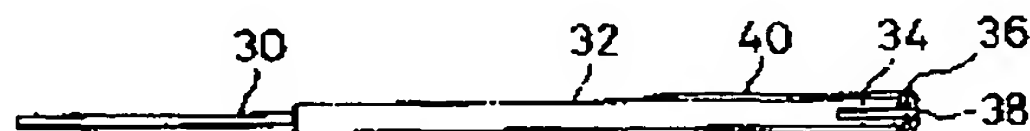
第1図は本考案に係る化粧用容器の一実施例である肩墨の筐体を分解して示す縦断面図、第2図は同容器の芯材(作業素子)及びその支持体を示す側面図である。

10…筐体、12…ノズル筒体、14…開口部、16…首部、18…突現、22…雌振子付き筒体、24…雌振子部、26…アングカッタ、30…芯材(作業素子)、32…支持体、34…基部、36…突起、38…スリット。

第1図



第2図



公開実用 昭和60— 161925

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭60— 161925

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和60年(1985)10月28日

A 45 D 40/20
B 43 K 24/06

6671—3B
6951—2C

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 化粧用容器

⑯ 実 願 昭59—48494

⑰ 出 願 昭59(1984)4月4日

⑱ 考 案 者	大 庭 淳	東京都新宿区下落合1丁目3番22号	鈴野化成株式会社内
⑲ 考 案 者	吉 野 俊 隆	東京都新宿区下落合1丁目3番22号	鈴野化成株式会社内
⑳ 出 願 人	鈴野化成株式会社	東京都新宿区下落合1丁目3番22号	
㉑ 出 願 人	株式会社鈴野エンタープライズ	東京都渋谷区神宮前2丁目35番9号	
㉒ 代 理 人	弁理士 吉 村 悟		

明 細 書

1. 考案の名称 化粧用容器

2. 実用新案登録請求の範囲

先端に作業素子30を出し入れする為の開口部14を有するノズル筒体12及び該ノズル筒体12の後端に回動自在に装着された雌振子付き筒体22からなる筐体10と、先端に作業素子30が固定されると共に後端基部34に上記雌振子付き筒体22の雌振子部24と係合する突起36が付設され、上記作業素子30と共に上記筐体10内に受容される支持体32と、からなり、上記ノズル筒体12と雌振子付き筒体22との相対的な回動により上記作業素子30を上記支持体32を介して上記開口部14に対して出し入れするようにした化粧用容器において、

上記支持体32の基部34に軸方向に沿ってスリット38を穿設し、該基部34を可撓二股構造としたことを特徴とする化粧用容器。



3. 考案の詳細な説明

〔考案の背景〕

本考案は化粧用容器に関し、より具体的には眉
墨或いは口紅等の如く筐体の回動により芯材等
(以下作業素子という)を筐体開口部に対して出
し入れする型式の化粧用容器関する。

従来の上記型式の化粧用容器の一般的な製品に
あっては、当該容器は、ノズル筒体及び雌振子付
き筒体からなる筐体と、該筐体に受容された作業
素子及びその支持体と、からなる。支持体の基部
には上記雌振子と係合する突起が付設され、上記
ノズル筒体と雌振子付き筒体との相対的な回動に
より上記作業素子が上記支持体を介して上記開口
部に対して出し入れされるようになっている。

然しながら上記従来品にあっては、支持体を作
動させる為の振子力が強い為、上記両筒体を支持
体移動の終点より以上に無理に回動させると、両
筒体が支持体に押されて嵌合部から分解したり或
いは部品が壊れたりする原因となった。また上記
両筒体は一般的に一方のアンダカットと他方の突

環との嵌合により係止してある為、上記振子力に抗してある程度迄両筒体が分解しないようにするには、上記アンダカットを深くして両筒体の結合力を強くする必要があった。然し深いアンダカットは成型時に同時に形成することが不可能であり、従って成型後別途機械加工をしなければならないという問題が生じた。

〔 考 案 の 要 約 〕

本考案は斯かる観点に基づいてなされたものであり、上記従来品の欠点を解消し、過剰に回動させた場合にも分解し難く、また成型後の機械加工が不要な化粧用容器を提供することを目的とする。

この目的を達成する為本考案においては、上記作業素子の支持体の基部に軸方向に沿ってスリットを穿設し、該基部を可撓二股構造とした。

〔 考 案 の 実 施 例 〕

第1図は本考案に係る化粧用容器の一実施例である眉墨の筐体10を分解して示す縦断面図、第2図は同容器の芯材（作業素子）30及びその支持体32を示す側面図である。

筐体10はノズル筒体12及び継振子付き筒体22からなり、両者は夫々樹脂材料を以って一体的に成型される。ノズル筒体12は先端に向かってテーパ状に細くなり、その先に芯材30を出し入れする為の開口部14が形成される。他方ノズル筒体12の後端には小径の首部16が形成され、その根元近傍には突環18が付設される。またノズル筒体12の内面には軸方向に延びる2筋の溝20が穿設され、これは後述する芯材支持体32の突条40と対応する。

継振子付き筒体22は略円筒状で、その内面に継振子部24が形成される。また継振子付き筒体22の先端側開口部近傍の内面にはアンダカット26が形成され、これは約0.1mm程度の深さで、当該筒体22の成型時に同時に形成し得る程度の浅いものとなっている。継振子付き筒体22は上記ノズル筒体12の首部16に装着され、該首部16の突環18に上記アンダカット26に係合することにより、該ノズル筒体12の後端に回動自在に嵌着係止される。

支持体32は比較的軟質な樹脂材料を以って成型されたもので、その先端に芯材（作業素子）30が



固定される。また支持体32の後端基部34には雄振子状の突起36が付設され、これは上記雌振子付き筒体22の雌振子部24と螺合し、支持体32自身を駆動するようになっている。また基部34には軸方向に沿ってスリット38が設けられ、その結果該基部34は可撓二股構造となっている。また支持体32の側部には軸方向に沿って延びる2筋の突条40が付設され、これは上記ノズル筒体12の溝20と係合し、当該支持体32をノズル筒体12に対して回動させることなく真直ぐに案内する役割を果たす。

上記構成の化粧用容器にあっては、筐体10の開口部14からの芯材30の出し入れは、上記ノズル筒体12に対して雌振子付き筒体22を（或いは筒体22に対して筒体12を）回動させることにより行なう。上記回動により、筒体22の雌振子部24は支持体32の突起36に対して螺動し、該支持体32を筐体10内で軸方向に駆動する。然し支持体32の先端がノズル筒体12の内面に衝合する終点において、更に筒体22を回動した場合には、支持体32の基部34はその可撓二股構造により縮径して空回りを生じ、支

持体32は最早移動することなくその位置に留まる。即ち、従来品であれば、雌振子部24と突起36との螺合が強制的である為、筒体22を終点より以上に回動させた場合には、支持体32の先端がノズル筒体12を押しやり、両筒体12, 22の結合力（前記突環18とアンダカット26との係合による力）を越えて両筒体12, 22を分解してしまつたが、本容器にあっては、上記結合力を越える前に基部34が縮径して空回りを起こす為、両筒体12, 22の分解は避けることが出来る。またこの時、筒体22の回動に応じて基部34が弾けて「パチン、パチン」と音がする為、使用者は芯材突出位置の終点を確認することが出来る。またこの種の音は芯材引込み位置の終点においても同様に確認することが出来る。

尚上記実施例においては眉墨について述べたが、本考案の機構は汎用性の高いものであり、筒体の回動により作業素子を出し入れするこの種型式の化粧用容器全てに適用可能である。

〔考案の効果〕

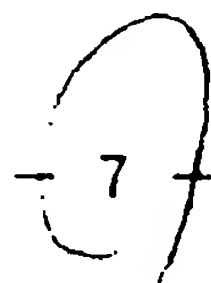
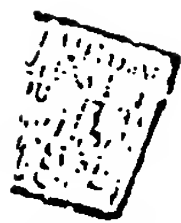
本考案に係る化粧用容器によれば次のような効

果を得ることが出来る。支持体基部が可撓二股構造をなしている為、過剰に回動させた場合でも空回りを起こし、両筒体が分解したり部品が壊れたりするようなことはない。またそれ故に両筒体結合の為のアンダカットを浅くすることが出来、従って該アンダカットを筒体成型時に同時に形成することが可能となり、筒体成型後の機械加工が不要となる。また支持体の移動範囲の終点においては支持体基部の弾ける音が発生する為、使用者は支持体移動の終点を確認することが出来る。

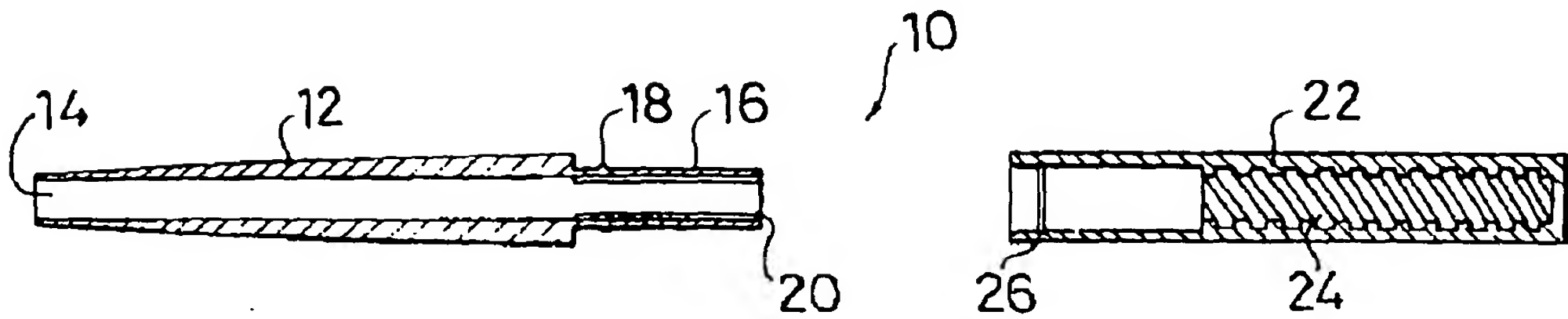
4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案に係る化粧用容器の一実施例である眉墨の筐体を分解して示す縦断面図、第2図は同容器の芯材（作業素子）及びその支持体を示す側面図である。

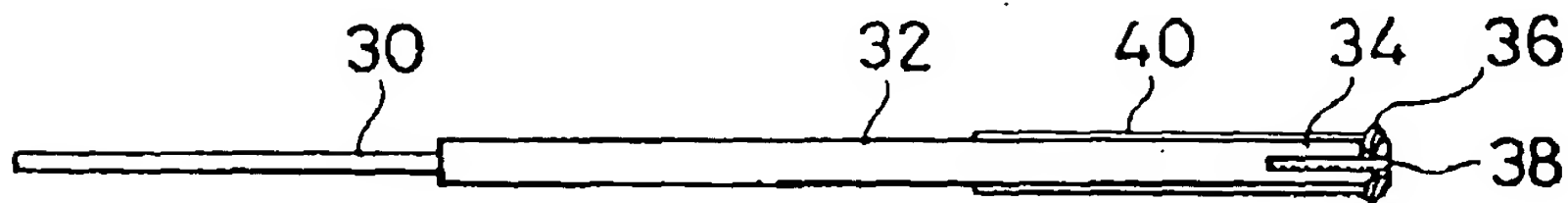
10…筐体 12…ノズル筒体 14…開口部 16…首部
18…突環 22…雌振子付き筒体 24…雌振子部
26…アンダカット 30…芯材（作業素子）
32…支持体 34…基部 36…突起 38…スリット



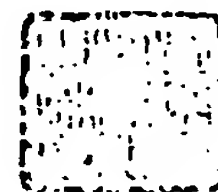
第 1 図



第 2 図



実用新案登録出願人 鈴野化成株式会社
実用新案登録出願人 株式会社 鈴野エンプライズ
代理人 弁護士 吉村 悟



216